

現代中国語における形容詞の連用修飾機能

小野 秀樹

1. はじめに

“状語 *zhuàngyǔ*” というのは中国語学の用語で、連用修飾語を意味する。文法書では必ず項目として取りあげられ説明もされているが、これを専一に考察した研究はそれほど豊富ではない。中国語のテキストにおいても、連体修飾語（中国語では“定语 *dìngyǔ*”）に関する説明は詳しいものもあるが、連用修飾語に関する記述は概ね簡単である。しかしながら、たとえば日本語などの他言語と比較して考えた場合、中国語の連用修飾についても未だ不明な部分や十分に説明されていない点などが存在する。本稿は、形容詞が動詞を修飾する事例を対象として、先行研究の分析に検討を加えつつ、その意味と機能についていくつかの角度からあらためて考察する。

2. 形容詞が直接動詞を修飾するとき（“AV”型）の機能

中国語の一部の形容詞は、単独で動詞の直前に付いて連用修飾語としてはたらくことができる（以下“AV”型と呼ぶ）。この構造の修飾語について、従来の研究では「動作を修飾する」、「行為の“方式”[あり方]を表す」とだけ説明されることが多かったが、実例を詳しく観察すると、このタイプの連用修飾構造は「分類」と「描写」という2つの機能を有していることが分かる。

- (1) 我一定要珍惜这次培训机会，多学、多听、多记、多问，把在上海学到的知识运用到家乡的教学工作。
(新华社 2001 年 5 月报道)
- (2) 如果饮凉开水后再参加轻微的体育活动如慢跑、散步、做操等，效果更显著。
(《养生与健美方法 100 例》)
- (3) 朋友，请您在购买音像带时，千万多个心眼儿，仔细看，认真听，多分析；一旦发现假冒伪劣制品，及时向音像管理部门举报，为了保护您的权益，也为了净化我国的音像市场。
(人民日报 1993 年 4 月份)

上は「分類」に属する例である。(1)の“多学”は「多く学ぶ」、「多问」は「多く尋ねる」という意味であるが、下線部の4つの“多V”は、すべて主語の“我”が参加する研修で目指そうとしている類化された行動様式を表している。(2)の“慢跑”は「ゆっくり走る」という意味だが、ジョギングという運動カテゴリーのひとつの種目を表す。(3)は“仔细看”[注意深く見る]、“认真听”[真剣に聞く]という二音節の形容詞が修飾語になっているものが含まれるが、これらも“多分析”[多く分析する]とともにビデオテープやカセットテープを購入するときに心掛けるべき行為を挙げたものである。分類項目としての行為を表す場合、“AV”には基本的に助詞や補語

などが付加されず、単独で用いられる。また、(1)(2)(3)でもそうになっているように、ほかの“AV”や動詞（句）と並列され、行為を列挙する場合に用いられることが多い。朱德熙 1956 は、このタイプの構造について、“由形容词构成的状语表示的是动作的方式或状态；就性质来说，这种状语是描写性的，不是限制性的。因此甲类成分一般不宜于做状语”〔形容詞から構成される連用修飾語が表すのは、動作のあり方または状態である；性質について言えば、こういった連用修飾語は描写的であり、限定的なものではない。よって甲類成分は一般に連用修飾語になるのに不適である〕と述べている。甲類成分というのは単独の形容詞を指す。この指摘にあるように、実際のところ、すべての形容詞が“AV”型を構成できるわけではなく、むしろ“AV”型を成立させる「形容詞＋動詞」の組み合わせは決して多くはない。ただ、(1)(2)(3)のような実例における“AV”型は行為の種類（パターン）を表すものであり、修飾語の形容詞は具体的かつ個別的な行為のあり方を描いているのではない。この点に鑑み、形容詞から構成される連用修飾語の性質を押し並べて「描写的」だとする朱氏の分析は若干修正を加える必要がある。

一方、以下は「描写」に属する例である。

(4) 我朋友感觉那男人心中有事，便多问了两句，没想到那男人很坦率地说，要是他妻子的日子不多了，他就得加紧些。
（皮皮《比如女人》）

(5) 她先在地上慢跑了一会儿，然后又压了压腿，没做太多有球训练，更没有参加分组对抗。
（新华社 2003 年 9 月报道）

(4)(5)における“AV”（“多问 / 慢跑”）は(1)(2)と同じである。しかし、(4)(5)の文の“AV”が表しているのは(1)(2)と異なり、個別の人物が実際に行なった具体的な行為であり、連用修飾語はそれに付帯する情報を添えている。実際に行なわれた行為のあり方や状況を表しているため、これらの“AV”における修飾語は描写機能を有していると認定することができる。

注意を要するのは、描写機能を有する“AV”型は単独で用いられず、特に形容詞が単音節の場合、(4)の“两句”〔二言三言〕や(5)の“一会儿”〔しばらくの間〕のように、直後に数量表現をとともう実例の数が大勢を占めていることである。たとえば、ある日の会合について言うとき、日本語で「あの日は遅れて行った（遅めに行った）」という文は問題なく成立するが、中国語において“*那天我晚去了”は文法的に成立せず、“那天我晚去了一会儿 / 30 分钟”〔あの日はちょっと / 30 分遅れて行った〕のように必ず数量表現の共起を要請する。ただ、その理由について言及した先行研究は寡聞にして知らない。本稿はその理由を以下のように考える。

形容詞（句）が連用修飾語になる場合は概ね「描写」機能を担うが（第 5 節を参照）、上述したように、唯一“AV”型のみが(1)(2)(3)のように「分類」機能を持つ。と同時に、“AV”型はまた、(4)(5)のように「描写」機能も有している。“AV”という同一の構造が 2 つの異なる機能を併せ持つわけだが、“高山 [高山]・热水 [お湯]・白纸 [白紙]”などの“AN”型名詞句は、すべて分類機能を有するもの、すなわち「類」を表す形式である（小野 2004 を参照）。このタイプの名詞句が具体的かつ個別的な行為の対象となる場合は、一般に数量表現が共起する（名詞句によっては代わりに所有者などが共起することもある）。この数量表現は、文中の“AN”が概念や類ではなく、実在する個別の事物であることを表す機能を持つ。

(6) 第三天上午，小分队登上了一座高山，向山下一看，整个的大山一棵树也没有，净光光的一片白雪。
（曲波《林海雪原》）

(7) 毛泽东有躺在床上看书批阅文件的习惯。我拿了一张白纸一支铅笔交给他。

(权延赤《红墙内外》)

これと同様に、単独の“AV”という形式もまた、分類がそのデフォルト機能である。よってこれがリアルに行なわれた(行なわれる)具体的かつ個別的な行為について用いられる場合は、文中で有標のかたちを取る必要がある。その有標化を担っているのが数量表現である。“AV”型に後置する数量表現は、単に行為に関する数量情報を提示しているだけではなく、“AV”という構造の意味を「類」から「個」へと変更させる標識としての機能を担っているのだと考えられる。

ただ、“AV”という構造が個別的行為を表すかたちはほかにも存在する。上の(4)(5)と以下の(8)のような数量表現をとまなうタイプ以外に、(9)のように“V”が重ね型(“看了看”のように、同じ語を2つ連続して用いるかたち)になるものや、(10)のように「定」(definite)の目的語を取る実例が存在する。このバリエーションは、形容詞が二音節の場合に多く観察される。

(8) 9月1日毛主席在庐山写的《我的一点意见》送到北京后，我仔细看了几遍。

(1994年人民日报第1季度)

(9) 那位卖主被找到后，从顾客手中接过皮甲克仔细看了看，脸红了。

(1994年报刊精选)

(10) 当时笔会向萧伯纳赠送了一盒有中国特点的泥制京剧脸谱。萧伯纳仔细看了这些精制的中国工艺品，并高兴地接受了。

(陈廷一《宋氏家族全传》)

単音節形容詞の“AV”の場合は数量表現が共起する実例が大多数を占める一方で、二音節形容詞の“AV”では(9)(10)のようなバリエーションが存在することは、形容詞が単音節か二音節かによって、“AV”を構成する成員(具体的な形容詞と動詞)が大きく様変わりすることに起因する。“AV”で常用される単音節形容詞(“多・少・晚・早”など)は物量、時間に関わるものが主流を占める。これらの形容詞は数量との意味的な結びつきが密接である。換言すれば意味的に数量情報を要求する度合いが高いという特徴を共通に持っている。また一方で、単音節形容詞と組み合わせられる動詞には、方向動詞や移動動詞、瞬間動詞が少なくないが、これらの動詞はそもそも重ね型を形成できず、特定の個としての目的語を取り難いものも含まれている。そういった事情から、単音節形容詞からなる“AV”が具体的かつ個別的な行為について用いられる場合は、数量表現が有標化の標識としてはたらく実例が多数を占めているのだと考えられる。

3. 形容詞の連用修飾用法と「意図」との関係

刘月华 1982 は、“快跑!”[はやく走れ]を例に挙げた上で、連用修飾語の“快”は「命令を表す」と分析している。また、日本語の連用修飾構造「きれいに洗う」「(字を)大きく書く」において、修飾語に行為者の意図を読み取ることは自然である。中川 1987 は中国語の形容詞が結果補語(動詞の直後に付いて、行為の結果を表す成分)になる場合と対比しつつ、「意図は、連用修飾語に込められる。『来早了』が『早く来過ぎた』に対して、『早来了』が『早く来た』であるように」と述べる。中川氏の指摘をもう少し詳しく補足すると、「動詞+結果補語」構造の“来晚了”は「予定の時刻に間に合うように来ようとしたが、結果的に来るのが遅れた(=遅刻した)」という意味を表すのに対して、「連用修飾語+動詞」構造の“晚来了”は「意図的に予定の時刻よりも遅く来た」という意味を表すということである。しかしながら、事実は必ずしもそうではない。

(11) 当年, 但凡他能爬起来, 他都会去把翠花接回来呀。三天, 他晚去了三天, 再去时, 翠花已经不知上哪儿了。他可天桥找, 满北京找, 哪儿找得着哇。(陈建功《皇城根》)

(11)の“晚去了三天”は「3日遅れて行った」という意味であるが、これは意図的な行為(行くべき日よりわざわざ3日遅く行った)ではなく、行ったときが結果的に3日遅かった、すなわち手遅れであったことを表している。

本稿の調査に基づけば、形容詞が連用修飾語になる場合、「意図」に対して中立である。故意に行なった行為を表すこともあれば、結果や失敗を表す文にも用いられる。

(12) 一双鞋怎么会是三只? 赵岚笑着告诉他: “你一只脚比较费鞋, 索性给你多做了一只, 这样三只鞋的寿命等于两双鞋。”这位残疾人很感动, 连赞小赵比自己的亲人想得还周到。

(人民日报 1996年9月份)

(13) 老师! 真对不起! 昨天熬夜赶报告, 结果多睡了十几分钟。(2020 駒場演習テキスト)

(14) 一天下午, 153次列车到站后, 交下一个严重烫伤的4岁孩子, 车站领导派张海燕送孩子上医院。救护车晚来了一会儿, 张海燕便自己掏30元钱, 叫来了出租车。

(人民日报 1994年第3季度)

(12)(13)の例はともに“多V”という同種の構造を述語動詞とする文であるが、(12)では“索性”[いっそのこと]が共起していることから分かるように、相手の足が悪く、片方の靴の減りがはやいので、意図的に靴の片方を多めに作ってあげた(1足ではなく1.5足分を作った)という意味を表している。逆に(13)では“結果”[その結果]が共起しており、徹夜でレポートを書いた結果、寝過ぎしてしまったこと(失敗)を表している。また(14)の例では、救急車が意図的に遅れて来るということは常識的には考え難く、これも結果を表す文だと認めることができる。「意図」なのか「結果」なのかの解釈は、命令文や使役文などの構文や、共起する助動詞(中国語では“能愿动词 néngyuàn dòngcí”)や副詞の意味、および文脈などから得られるものであり、連用修飾語によって齎されるものではない。刘月华 1982が「命令を表す」と分析した“快跑!”[はやく走れ]も命令文であり、この文が表す命令義は、連用修飾語“快”が単独で担っているわけではない。連用修飾語は「意図」の有無には関与せず、行為に付帯する様態や状況を表しているだけである。

因みに、先に引用した中川 1987では、“快”が連用修飾語になる場合について、『快唱』は、『歌のテンポを速くしろ』という意味ではなく、『はやく歌いはじめろ』の意味である。『快走』は『スピードをあげて歩く』と『はやく出発する』と二義的であるようだが、『あなた、私達』以外の主語を添えることができない。『快』が動作の有り様を修飾する語として機能できていないのである」と指摘している。しかし、次のような実例が存在する。

(15) 阿Q将手向头上一遮, 不自觉地逃出门外; 洋先生倒也没有追。他快跑了六十多步, 这才慢慢的走, 于是心里便涌起了忧愁:(鲁迅《阿Q正传》)

(15)の“快跑”[はやく走る]の主語(動作主)は三人称である。また、この文は“不自觉地”[無自覚的に/思わず]が共起している文に続くもので、“快跑了六十多步, 这才慢慢的走”は、ものすごい剣幕で洋先生と周囲の人々に追い出され、思わず外に逃げ出したあとの阿Qの行動を描いており、その際に阿Qが60数歩走った速度とその後のゆっくりした歩みを意図的に制御しているわけではないことは、文脈から明らかである。

4. 連用修飾語と補語の比較

形容詞（句）から構成される連用修飾語を考察した先行研究では、形容詞（句）が補語になる場合と比較したものが少なくない。たとえば以下のように、同じ形容詞と動詞の組み合わせで、「連用修飾語＋動詞」構造と「動詞＋補語」構造の両方が成立する例も存在する（ここで言う補語は、動詞のあとに助詞“得”をとめない、そのあとに形容詞句が続く「様態補語」を指す）。

(16) 她在默默地斟酒，为她的丈夫和她自己都满满地斟了一杯。 （古龙《英雄无泪》）

(17) 利杜马把一只箱子挪近席子，打开箱子取出一瓶酒，用牙齿拔开软木塞，猴子帮他把四个杯子斟得满满的。 （马里奥·巴尔加斯·略萨《绿房子》）

連用修飾語と補語の比較において、先行研究の分析は些か錯綜している一面がある。刘月华1982は連用修飾語を含む文は叙述的で、補語を含む文は描写的であると述べた。後に、朱文文2011は連用修飾語を含む文は叙述的であるが、連用修飾語そのものは描写的であると分析し、補語については構造自体もそれを含む文も、ともに評価的（原文では“評議性”）であると認定している。また、朱文文2010は、連用修飾語は“方式”を表し、補語は“結果”を表すという複数の先行研究の分析に対して、以下の(18)(19)のように、両者には例外（逆の状況）があると指摘した。

(18) 但他没有先去看牲口，先看看大门边的苞米楼子，里头满满地装着黄闪闪的苞米。

(19) “那可不行，我还没跟外婆请示汇报呢！”林雁冬大声说，说得很认真，很着急……

(18)の“满满地”[ぎっしりと]は連用修飾語であるが、意味的にはトウモロコシを積み上げた結果状態を表しており、(19)の“很认真”[とても真剣である]と“很着急”[とても慌てている]は補語であるが、これは発話した動作主（林雁冬）の態度であり、行為のあり方（“方式”）を表しているという指摘である。この指摘は連用修飾語や補語という「文成分」が有する意味と、そこに用いられる具体的な語句の意味を比較したものであり、どこまで有効な分析なのか疑問がある。現に上の(16)(17)のように同じ語が連用修飾にも補語にも用いられる以上、語句の持つ意味特徴の面において、連用修飾と補語が排他的な関係にあるとは言い難い。同様に、「叙述的」なのか「描写的」なのかという区別も、同一の語句が両方に現れる以上、連用と補語の違いを考える上で十全な基準になるとは考え難い。さらに言えば、連用修飾語と補語とを比較している先行研究は、恰も両者が互いに対照的に存在する文成分であるかのように論じているようにも見受けられるが、以下の(20)では連用修飾語を含む動詞句（狠狠地捶着汽车的方向盘）が補語として用いられている。一方が他方の構造内部で用いられる場合があることから、連用修飾語と補語は対峙して相反する関係にあるとは言えない。

(20) 吴天雄的脸色难看极了，他忍着心痛，狠命地拧着车钥匙，可是车还是不动，他气得狠狠地捶着汽车的方向盘。 （白帆《寂寞的太太们》）

連用修飾語と補語は、ともに動詞と組み合わせて用いるものであるが、両構造において動詞の文法的・意味的振る舞いが異なることは、もっと注目されて良い。実例を見渡すと、連用修飾語が共起する場合、大部分の文において、動詞には同時に完了や持続を表す接辞（“了”や“着”）や結果補語、方向補語などがともなう（ただし“会”や“能”などの助動詞が共起してバーチャルな行為や事態を表す場合や、二音節動詞を用いた文語的表現はこの限りではない）。たとえば、連用修飾をともなう“飞快地跑”[飛ぶようにはやく走る]という動詞句を北京大学のCCL

コーパスで検索すると、130例（辞書項目の2例を除く）が検出されるが、内訳は、“跑+方向補語”が85例、“跑+結果補語”が30例、“跑+了”が10例、“跑+着”が4例となっており、無標識の“跑”は1例のみである（この1例には“会”が共起している）。これは、連用修飾をともなう動詞文が、分類を表す“AV”型とバーチャルな行為を表す場合を除いて、すべて実際に行なわれた（行なわれる）具体的かつ個別的な行為や事態をありのままに（実況的に）言語化し伝えていることを表している。それゆえに、動詞は通常、接辞や補語（方向・結果）をともなう述語動詞本来のかたちを呈し、連用修飾語はその行為の「様態（あり方=どのように行なうか）」という情報を付加する。行為や事態を実況的に伝えるということから、連用修飾語の表す様態は動詞の表す行為（または状態）と一体化したものであり、時間的な観点から言えば行為と同時に発生（存在）するものとして表される。日本語では「きれいに洗う」は自然な表現だが、中国語で“干净 [きれい・清潔である]は連用修飾語にはなり難い。“*他干净地把衣服洗了”は非文法的で、結果補語として用いて“他把衣服洗干净了” [彼は服をきれいに洗った]と言わねばならない。“干净”という形容詞が表す性状は洗い終わったあとの服の状態を表すものであり、洗うという行為の側と一体化できる性質ではないからである。それゆえ“干净”が連用修飾語になる場合は、次の(21)のように「てきぱきとしている」といった違う意味（派生的な意味）として機能する。

(21) 那发子弹从许多多头上飞过，许多多转身，防化服对行动有些阻滞，但他很干净地完成了一个远距点射，然后保持着那个瞄准姿势。
（兰晓龙《士兵突击》）

連用修飾語が行為や状態のあり方を描くのに対して、補語は行為にともなう様態の程度や結果状態を提示することにより、話者が認定した評価を表す。連用修飾語と共に起る動詞は、先に述べたように完了や持続、行為の方向や結果状態などの種々の要素と結びついて行為のさまざまな局面や状況を表すが、補語の場合は動詞の直後に常に助詞“得”が付くことが対照的である。杉村1995が夙に指摘するように、“V得”は文脈上すでに言及された（もしくは知識的にその存在が意識されるような）行為について用いられる承前形式であり、“V得”という形式においては完了や持続などの行為の実態面はすべて捨象される。つまり、補語をともなう場合、行為を表す動詞は意味的には評価を受ける対象として概念的なレベルで捉えられ、形態論的には助詞“得”をともなう有標化する。日本語でも行為を評価する場合、「彼は歌を歌うのがうまい」のように動詞に助詞「の」を付加して名詞化するが、その意味において中国語もまた、動詞に“得”を付加して、既知の個別的な行為を概念化した行為に変換し、表しているのだと考えられる。また補語は実際に発生し存在する（存在した）行為に対する評価を表すので、原理的に言えば行為に対して継起的に発生（表明）する関係を持つ。“他跑得很快” [彼は走るのがとてもはやい]において、「とてもはやい」という様態とその程度は、無論「走る」という行為に付帯して発生するものであるが、「評価」はその行為を知覚した人が自分の基準や知識に基づいて判定するものであるため、行為と評価の間には（たとえ瞬時であっても）時間的な前後関係が存在する。連用修飾語を用いた文は、ある行為や事態をリアルタイムで実況的に伝え、過去の回想であっても録画を再生するかのよう到来事を語る。連用修飾語の表す様態は、常に行為と一体化して伝達される。一方、補語の方は評価であるため、根拠になる様態や程度は当該の行為に付帯して発生するものではあるが、行為と分離して提示されるものである。“小王跑得很快”と言うときに、“小

王”は必ずしも眼前で走っていなくても良い。極端に言えば、話者（評価者）は“小王”の走る姿を一度も見たことがなくても、タイム（記録）を知っているだけで“很快”という評価をすることができる。

5. 連用修飾と連体修飾の比較

ここで、形容詞を用いた連体修飾構造と比較しながら、連用修飾構造の機能を全体的に記述した上でまとめる。まず、比較対象とする連体修飾構造の4つのタイプについて、小野 2004 における分析に基づいてその機能をまとめておく。

(2) 形容詞を用いた連体修飾構造の機能 (cf. 小野 2004)

AN 型 : 【分類】 (ex. 高山 [高山] / 紅茶 [紅茶] / 干淨衣服 [清潔な服])

A₁ 的 N 型 : 【限定】 (ex. 白的药片儿 [白い方の錠剤] / 重的箱子 [重い方のトランク])

A₂ 的 N 型 : i) 【限定】 (ex. 聰明的孩子 [賢い(方の)子供])

ii) 【(認知的) 描写】 (ex. 聰明的烏鴉 [賢いカラス])

AA 的 N 型 : 【(現場的) 描写】 (ex. 高高的山 [高い山] / 干干淨淨的衣服 [清潔な服])

(2)で、“A₁”は単音節形容詞を表し、“A₂”は二音節形容詞を表す。“A”は両方を含む。

“AN”型はすべて「類」を表し、修飾語の形容詞は分類機能を持つ。“A”と“N”の意味関係は、「属性抽出型」(“高山”)、「比較対立型」(“紅茶”)、「特定個別型」(“黑市”[闇市])の3つのパターンに分けられるが、いずれにしても“AN”は“N”の下位類として存在する。朱德熙 1956 が指摘するように、このタイプの連体修飾構造は(“AV”型と同様に)生産的ではなく、任意の“A”と“N”を組み合わせる自由にはできない。“AN”は総体的に「類」であることから、基本的には“A”の表す属性と事物“N”の組み合わせが恒常的であるものや、そういう類の存在が人々に共通して認識されているものが“AN”を成立させるのだが、場合によってはその認識は中国人に固有のものもあり(たとえば“AN”がメタファーとして用いられる場合や、中国独自の文化に基づいて認定されるもの)、汎言語的な基準ばかりとは言えない。

“A₁ 的 N”型は形容詞に助詞“的”を付加した上で名詞を修飾する形式だが、これは“AN”型とは異なり、具体的かつ個別的な事物を表す。形容詞の意味は限定的にはたらし、明示されていなくても対比項の存在が想定される。たとえば“重的箱子”と言う場合は、明に暗に「軽い方の別のトランク」が意識されている。

構造は同じでも、形容詞が二音節の“A₂ 的 N”型では事情が異なる。このタイプは2種類の機能に分化する。ひとつは“A₁ 的 N”型と同じく具体的かつ個別的な事物に対する限定機能であり、もうひとつは事物“N”を均質な集合体と見なしてその属性を描写的に付加する機能である。ここで言う描写とは、「可愛い子には旅をさせよ」という俚諺の「可愛い子」が、「(我が)子というのは可愛いものだ」と解釈される場合の意味機能を指す。もしこの俚諺を「世の中には可愛い子と可愛くない子がいるが、可愛い子であるならば旅をさせなさい」という意味に解釈すれば、「可愛い」は限定的である。本稿ではこの種の描写を「(認知的) 描写」と呼んでおく。“A₂ 的 N”型が「限定」を表すか「(認知的) 描写」を表すかには一定の基準がある。“的”を削除して“A₂N”が成立するならば(ex.“聰明孩子”は成立)、“A₂ 的 N”型は「限定」を表す。逆に、“A₂N”が成立しないならば(ex.“*聰明烏鴉”は不成立)、“A₂ 的 N”型は「(認知的) 描写」

を表す。これにはやはり人の認知が関与している。すなわち、“A 的 N”型において“N”は「具体的なヒト・事物」であるが、それが「集会的」な意味を表す場合、“N”を「多様な集団」として捉えるか「均質な個の集まり」として捉えるかという違いがある。“孩子”[子供]は一般に、「種々の異なる性質を持つ個を含む集団」として認知されているので、“聪明的孩子”は限定的な解釈になる。一方、“乌鸦”[カラス]は基本的に「一様な性質をもつ同種のもの」と認識されているので、“聪明的乌鸦”は「(認知的)描写」の解釈(カラスというのは賢い)になる。

形容詞が重ね型になる“AA 的 N”型は描写機能を持つ。この描写は“A₂ 的 N”型とは異なり、具体的かつ個別的な事物について話者が実際に知覚した性状・属性をそのまま描くという意味である。本稿ではこれを「(現場的)描写」と呼んでおく。現物の有り様を描くということから、このタイプに用いられる形容詞は、話者自身が知覚できる属性を表すものが多い。中でも「形状・色彩・大小・長短」など、視覚で捉える属性を表す形容詞を用いる文が数において優勢である。

以上の連体修飾構造の機能と対比しながら、連用修飾構造について同様の観点から分析した結果を以下に示す。連用修飾構造のタイプもまた、形式的には連体修飾構造と並行する関係を持つ。しかし、各タイプにおける機能は、連体修飾構造と同じというわけではない。

(23) 形容詞を用いた連用修飾構造の機能

AV 型 : i) 【分類】(単独で用いられる)

(ex. 多说 [多く話す] / 高喊 [声高に叫ぶ] / 仔细看 [つぶさに見る] / 认真听 [真面目に聞く])

ii) 【[現場的]描写】(別の成分が付加され、有標形式で用いられる)

(単音節形容詞の場合) 数量表現が後続する

(二音節形容詞の場合) V が重ね型になる / 数量表現もしくは「定」(definite)の目的語が後続する

(ex. 多说了一句 [一言多く言った] / 高喊了一声 [一言声高に叫んだ] / 仔细看了看 [つぶさに見た] / 认真听了大学生们的意见 [(その場にいる) 大学生たちの意見を真面目に聞いた])

A₁ 地 V 型 : 不成立 (実例が存在しない)

A₂ 地 V 型 : 【[現場的]描写】

(ex. 悠闲地歪着头 [のんびりと首を捻っている] / 短促地叹了口气 [ふうっと短く息を吐いた] / 焦急地等待着他 [イライラして彼を待っていた])

AA 地 V 型 : 【[現場的]描写】(程度の高さを強調する意味を含む)

(ex. 低低地说了一句 [低い低い声で一言言った] / 狠狠地吸了几口, 长长地吐了几个烟圈 [憎々しげに何口か(タバコを)吸って、長々といくつか煙の輪を吐いた] / 轻轻地叩了几下门 [そおっと何回かドアを叩いた])

(23)における“A₁”、“A₂”、“A”の記号の意味は(22)と同じである。“AV”型についてはすでに第2節で述べたので、ここではあとの3つのタイプについて述べる。3つのタイプは、いずれも形容詞に助詞“地”を付加した上で動詞を修飾する。このうち単音節形容詞の“A₁地V”型は、筆者の現時点までの調査において実例が発見されていない。その理由の一端は連体修飾構造の機

能から類推することが可能である。単音節形容詞に“的”を付加して修飾する“A₁ 的 N”型は、上で述べたように限定的な機能を持つ。たとえば“大的方面”[大きい(方の)領域]と言う場合、必ず“小的方面”[小さい(方の)領域]が文中で対比されるか、話者の頭の中で意識されている。“A₁ 地 V”型は形式的に“A₁ 的 N”型と並行する関係にあるので、もしこのタイプの実例があるとすれば、それはやはり限定の機能を有すると仮定してみよう。しかしながら、名詞が表す「事物」とは異なり、動詞が表す「行為」の方は、限定的に捉えられる性質のものではない。事物が限定されるときは、当然ながら必ず性質を異にする同種の事物が同時に存在している。「新しい(方の)資料」というのは「古い(方の)資料」と対比して資料を限定するが、それは新旧2つの同種の資料が存在している状況で、両者を新しさという性質に基づいて区別しているのである。「広い(方の)部屋」という限定表現は、それよりも狭い別の部屋の存在がなければ成立しない。一方、「行為」について考えると、通常動作主が一回に行なう行為はひとつであり、同時に別の同種の行為が存在することはない。マラソンのように、複数の人が同時に同じ場所を走っている場合、それぞれの人の走る速度は異なるが、その状況においても行為そのものを限定的に捉え、“*快地跑”や“*慢地跑”という形式を用いて、「はやく(はよい方の)走る」、「ゆっくり(ゆっくりした方の)走る」のように限定的に言い表すことはできない。その状況下で仮に何らかの必要があって限定的な区別を行なうときは、「はやく走る(方の)人/ランナー」「ゆっくり走る(方の)人/ランナー」のように、結局は事物(人/ランナー)が限定の対象になる。要するに、実在する同種のものについて他と比べて限定的に区別ができるのは「事物」だけである。

“A₁ 地 V”型の実例が存在しない理由を別の角度から考えてみる。つまり、限定が成立しないのであれば、描写ではどうかということである。一般に、中国語の単音節形容詞はそもそも描写に向かない。単音節形容詞は、単独で述語になる場合も必ず対比義を含意する。つまりは限定的に作用する。単音節形容詞を描写に用いる場合には、通常は副詞と組み合わせたり、重ね型にしたりする必要がある。単音節形容詞が描写機能を持てるのは、“AV”型が具体的かつ個別的な行為について用いられるときだけであるが、これは行為の類を表すものとして成立する“AV”型が有標のかたちを取って個別の行為を表しているのであり、生産的でもなく、類型化された行為を実地に当てはめて有標化したかたちで用いた結果獲得する機能である。形容詞が助詞“地”をとまって、より本格的に「描く」という機能にシフトした瞬間に、単独の単音節形容詞はその機能を持たないがゆえに、“A₁ 地 V”型を成立させる術がないのだと考えられる。

二音節形容詞によって構成される“A₂ 地 V”型と重ね型を用いた“AA 地 V”型は、基本的には連体修飾構造の“AA 的 N”型と同様の機能を持つ。すなわち、具体的かつ個別的な行為や状態について、話者が実際に知覚した行為の様態(=あり方)をそのまま描くという機能である。“A₂ 地 V”型の機能が、形式的には並行する連体修飾の“A₂ 的 N”型の機能とは重ならないことには注意が必要である。“A₂ 地 V”型は行為を修飾するため、“A₁ 地 V”型が成立しないことと同様に行為を限定することはできず、また同じような理由により、行為に対して「(認知的)描写」をすることもできない(「走るというのは、はよいことだ」のような認識はできない)。

以上で述べた連体修飾構造と連用修飾構造の機能の要点を、<表1>にまとめておく。

<表 1> 連体修飾と連用修飾の機能 (注) “de” は、助詞 “的” および “地” を表す。

修飾語の種類別	連体 (+N)	連用 (+V)
A (A ₁ & A ₂)	分類	i) 分類 (無標識) ii) [現場的] 描写 (有標識)
A ₁ + de	限定	実例なし
A ₂ + de	i) 限定 ii) [認識的] 描写	[現場的] 描写
AA (A ₁ & A ₂) + de	[現場的] 描写	[現場的] 描写 (程度の高さを含意)

“AA 地 V” 型は、単音節の “A₁ 地 V” 型が描写手段としても存在しない穴を埋めている役割を果たしている面もあると考えられるが、同じ現場的な描写機能を持つ “AA 地 V” 型と二音節の “A₂ 地 V” 型との最も大きな違いは、“A₂ 地 V” 型はただ描くのみであるのに対して、“AA 地 V” 型は現場で知覚した行為や状態のあり方を描くのと同時に、そのあり方を表す様態や属性の「程度の高さ」を含意していることにある。そのことについて、次節で詳しく考察する。

6. 連用修飾語の含意——重ね型の表す “感情色彩” について

朱德熙 1956 は、形容詞の重ね型には “感情色彩” [ニュアンス / 話者の感情面に基づく意味合い] が備わっていると指摘し、その指摘は半世紀以上の時間を経た現在においても、なお研究者に大きな影響を与えている。重ね型の “感情色彩” は一様ではなく、文中の位置によって異なる。連用修飾語に用いられる場合については、以下のように指摘する。

(24) 完全重疊式的情形要复杂得多，因为它所表示的感情色彩不象不完全重疊式那样显著，而且在句子里的位置不同，它所表现的感情色彩也不同。一般说来，完全重疊式在状语和补语两种位置上往往带着加重、强调的意味。(5.3 節：下線は小野による)

[完全重疊形式の状況はもっと複雑である。なぜならそれが示すニュアンスは不完全重疊形式ほど顕著ではなく、かつ文における位置が異なると、それが示すニュアンスも異なるからである。一般に、完全重疊形式は連用修飾語と補語の 2 つの位置では往々にして程度を強め、強調する意味を帯びる]

一方、連体修飾語に用いられる場合については、次のように指摘する。

(25) 在定语和谓语两种位置上的时候，完全重疊式不但没有加重、强调的意味，反而表示一种轻微的程度。(5.4 節)

[連体修飾語と述語の 2 つの位置にあるとき、完全重疊形式は程度を強め、強調する意味を持たないばかりか、逆に軽微な程度を表す]

さらに、連体修飾 (と述語) で重ね型を用いる場合は、程度が軽微であることに加え、それが話者自身の感覚において「ちょうど良い」という程度であることを表し、単音節形容詞の場合は、そのことに加えて「愛しみ・親しみ」の意味も込められると分析されている。

以上の朱德熙 1956 の指摘に関しては、その後のいくつかの研究において同意や反論が述べられているが、反論しているものは分析にやや牽強付会な解釈や事実誤認を含んでいる点が見られ、未だ十分な説得力を持っている議論はなされていないように思われる。

連体修飾に用いられる重ね型に関して、筆者は小野 2018 で自身の調査に基づき見解を述べ

た。結論だけ再録すると、連体修飾構造における重ね型の“感情色彩”は「中立」であり、朱徳熙 1956 の指摘する軽微な程度や親しみを表すもの以外の実例も少なからず存在する。

(26) “体委张”站起来了。他近 40 岁的年纪，矮矮的个头，瘦干干的身架，作为一个男子汉，似乎显得不够气派。
(李延国《穆铁柱出山记》)

(27) 当脑颅被打开后，昔日美丽的龚澎已不成样子，深深的刀痕，厚厚的绷带，脸色蜡黄。周恩来说：“我不愿意看到龚澎这样子，看了我就难过，以后我不来医院看她了。”

(张容《一言难尽乔冠华》)

(26)の文はスポーツ委員の張という人物の外見について述べているが、書き手は決して張という人物に好意を持ってはいない。“矮矮的个头”[低い背丈]は「ちょうど良い」という程度でもなく、むしろマイナスな意味合いを帯びている。(27)の“深深的刀痕，厚厚的绷带”[深いメスの痕、厚い繃帯]は手術後の龚澎の痛ましい姿を描いている。程度の面から言うとむしろ強調されており、描かれている場面から考えて可愛さや親しみとも無縁である。さまざまな実例を観察した結果、連体修飾に用いられる重ね型は、すべてが軽微な程度を表しているわけではなく、程度の高低に関わらず均しく用いられていることがわかる。また、朱徳熙 1956 では、単音生形容詞の重ね型には「愛しみ・親しみ」の意味も込められるがゆえに、“坏”[悪い]や“丑”[醜い]など悪い意味を表す形容詞は重ね型にできないとも指摘しているが、コーパスやインターネットで検索すると、決して多数ではないものの、まったく実例が無いわけではない。

一方、連用修飾に重ね型が用いられる場合は、本稿の調査においても朱徳熙 1956 の指摘する通り、概ね形容詞の表す属性や様態の程度が高いことが強調されるようである。

連体の時は程度の高さに関して中立で、連用の時は程度の高さを強調するのはなぜか。その理由は前節の<表 1>で示した双方の修飾構造における機能分担の違いに求めることができるだろう。<表 1>から分かるように、連体修飾語の場合、現場的な描写を行なうのは重ね型を用いた構造に限られる。“AA 的 N”型は唯一の描写手段であるがゆえに、程度の低い場合も高い場合も、また程度の高低を意識していない場合も含め、すべての現場的描写を一手に引き受けなければならない。よって程度の高低に対して中立的なのである。翻って、連用修飾語の場合は、分類機能を持つ無標識の“AV”型を除いて、形容詞の音節と形態に関わらず、すべての形式が描写機能を有している。そしてそれらはすべて現場的な描写を表す。同種の描写機能を有する表現手段が複数存在する以上、相互の形式の間には意味機能の違いが出来ることが可能（あるいは必然）になる。そのような状況において、重ね型にはその形式に由来する意味特徴が付帯するのだと考えられる。重ね型とは言うまでもなく、同じ語を 2 回連続させる形式である。たとえば日本語の「長い長い話」「高々と掲げる」のように、また英語の“a long long time ago”のように、一般的に同じ語が「重複 (reduplication)」されるときは程度の高さを強調する。連用修飾語における中国語の形容詞重ね型にもそれと同様の意味機能が適応され、程度の強調を表すのだと考えられる。

参考文献 (引用した文献)

- 小野秀樹 2004 名詞句における形容詞の属性付与と様態描写, 『現代中国語研究』第 6 期
小野秀樹 2018 『中国人のこころ——「ことば」からみる思考と感覚』, 集英社新書

- 杉村博文 1995 中国語における動詞・形容詞の承前形式, 『語学研究大会論集 3』
中川正之 1987 中国語と日本語の形容詞 - 意図と結果 -, 『日本語学』 vol.6
刘月华 1982 状语与补语的比较, 《语言教学与研究》第 1 期
朱德熙 1956 现代汉语形容词研究, 《语言研究》第 1 期
朱文文 2010 状补句位意义及其对形容词的语序选择, 《世界汉语教学》第 4 期
朱文文 2011 状补话语功能的对立及其对形容词的语序选择, 《语言教学与研究》第 1 期

北京大学中国語学研究中心コーパス (CCL 语料庫) : http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/